

特集●自閉症・アスペルガー症候群・LD・ADHD—母子保健事業の課題と期待

軽度発達障害の理解と疫学——横浜市西武地域センター児童精神科 中根 晃

軽度発達障害者の支援体制の課題——筑波大学大学院人間総合科学研究科 宮本 信也

軽度発達障害者に対する特別支援教育の現状と課題——(独)国立特別支援教育総合研究所 西牧 謙吾

発達障害者支援に関わる施策の現状について——厚生労働省精神・障害保健課 福島 靖正・他

「軽度」発達障がい者に対する小児医療現場の現状について

——新潟県はまぐみ小児療育センター診療部長 東條 恵

市町村における発達障害児(者)の早期発見、早期支援体制——戸田市立医療保健センター相談役 平岩 幹夫

発達障害者の社会支援活動の現状と課題—発達障害者支援センターの立場から

——大阪府発達障害者支援センターアクトおおさか 新澤 伸子

●視点

健康危機管理におけるボランティアの意義と課題——浜松医科大学健康社会医学講座教授 尾島 俊之

●【新連載】公衆衛生オルタナティブ

〔鼎談〕がん・循環器疾患の予防対策を考える(上)——大島 明・磯 博康・坪野 吉孝

●【新連載】地域における自殺対策の新展開—自殺は予防できる

秋田県の自殺予防——秋田大学医学部社会環境医学講座教授 本橋 豊

あ と が き

2月初め、雪の山形を離れ、東京の多摩地域に出張しました。快晴の青空と富士の遠景に誘われて目的地まで30分間歩いたのですが、翌朝起きると鼻の奥に違和感!山形では例年2月中旬か下旬に始まる花粉症の初期症状に間違いありません。高校時代までアレルギーには無縁と思っていた私ですが、大学生になった頃から花粉症に悩まされております。原因となる花粉の種類も年齢とともに増え、今ではイネ科植物やスギのほか、桜桃の受粉作業をしても症状が悪化します。

このように自分自身も悩んでいるため、花粉症を始めとするアレルギー性疾患についてはインターネットなどを介して新しい情報の入手に努めてきたつもりです。しかし、病態機序などの免疫学的な研究成果については、サイトカイン

などの専門用語にアレルギー症状を呈してしまい、読み飛ばしておりましたので、今回の特集論文は大変勉強になりました。巻頭の「視点」欄において、IgEの発見者であり免疫・アレルギー学の世界的権威である石坂公成先生の丁寧な解説を最初に拝読したことで興味がわき、専門用語に対するアレルギーも少し緩和したようです。

食物アレルギーへの対応に関連して、丸井先生の「食品衛生の問題はモノに注目しているだけでは片付かない…食品衛生や品質管理は『ひと』との関係を前提として考えなくてはならなくなっている」というまともにも感銘を受けました。花粉症の開始時期に一致して発生した中国製冷凍ギョーザ中毒事件への対応でも、同様の考え方が重要だと感じた次第です。(阿彦忠之)

公衆衛生(第72巻 第3号) 2008年3月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2008 年々ぎめ予約購読料 28,200 円 ※配送料弊社負担)

発行:株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所:三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所:(株)東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン:デザイン・プレス

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2008, Printed in Japan.

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・JCLIS《©日本著作出版権管理システム委託出版物》

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に©日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)の許諾を得てください。

・医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

品川 靖子 東京都杉並区杉並保健所

高島木敏雄 大阪大学大学院医学系研究科

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

時に、食中毒などの「事件」が発生し、編集委員の先生が月に1度の編集会議にご出席できない、緊急事態が発生します。そんな時、人々の健康を守るために身を捧げる、公衆衛生医師の真摯な姿が垣間見られるのですが、同時に、編集部も編集会議の今後のスケジュールを慌てて立て直す、危機対応能力が要求される時でもあります。「編集会議」こそ小誌の命綱ですから、その間はもう平常時の仕事をすべて脇に置いて、危機対応に没頭です。お1人お1人の編集委員にあたって事情を説明したり、日程調整をしたり、編集部の方針を打ち立て、先生方個々の意見をとりまとめ、次回の会議日程が決まって、ようやくホッと安堵。編集部でも公衆衛生の危機対応、少しだけ体験しております。(野中)

(担当/野中・天野)